

Case 38 – 2013

A 30-Year-Old Man with Fever and Lymphadenopathy (N Engl J Med 2013;369:2333-43.)

Problem List

リンパ節腫脹

2 週間前からのリンパ節腫脹。右後頸部リンパ節群に、いずれも圧痛を伴う直径 1cm 程度のリンパ節を 5 つ触知する。左後頸部リンパ節、両鼠径リンパ節に圧痛は伴わない。その後の造影 CT では両側のオトガイ下、下顎、頸静脈リンパ節、縦隔、肺門部リンパ節にそれぞれ最大径 9mm 程度のリンパ節腫脹を認めた。

発熱・SIRS の所見

2 日前から発熱、頭痛、筋肉痛、悪寒、倦怠感、食欲低下、発汗を訴える。イブプロフェン・アセトアミノフェンが著効せず。血培は継続して陰性。リンパ節組織生検部位のグラム染色、抗酸菌染色で微生物は認められない。

白血球減少

小球性低色素性貧血

以前から指摘されてはいたが、健康上の問題はなし。軽度脾腫、収縮期駆出性雑音 (1/6) も貧血に因る？

インド出身・6 ヶ月前にインドへの渡航歴あり

乾性咳嗽

異常肺音は聴取せず。気管支呼吸音を前右胸部にて聴取するのみ。

唇上の右下に潰瘍